



京都大学

設置期間 2017年7月1日～2020年6月30日

寄附者 公益社団法人 日本港湾協会/一般財団法人 港湾空港総合技術センター/一般財団法人 沿岸技術研究センター

 「グローバルロジスティクスに対応した  
 港湾の競争戦略とリスクマネジメントに関する研究」


## 教員

 教授 山田 忠史 / 特任教授 小林 潔司 / 特定教授 渡部 富博 / 特定准教授 小川 雅史  
 客員教授 小野 憲司 / 客員教授 宮田 正史 / 客員教授 赤倉 康寛 / 特命教授 河合美宏

## 講義

 ◎ グローバルロジスティクスと海運  
 ◎ グローバルロジスティクスと貿易

## 研究テーマ

本寄附講座では、下記の研究を国内外の関係部局・関係機関などとも連携し、理論・実践の両面からバランスよく行っていきます。

- ① 貿易・ロジスティクスを取り巻く環境変化、ICTの進展等に対応したより効率的な港湾物流・港湾のあり方に関する研究
- ② 切迫する巨大地震・津波などの来襲時の港湾物流のあり方など、港湾・海運のリスクマネジメントに関する研究
- ③ 我が国の主要貿易相手国をはじめとする開発途上国の港湾インフラの計画・整備に関する研究

## 背景・概要

アジア諸国の経済発展、国際的な産業構造の変化などが進み、国際貨物量の増大に対応した超大型船の投入や海運企業アライアンスが進んでいるほか、多様な荷主の輸送ニーズにも対応しつつ輸送の効率化を図るために、フェリー・RORO船・コンテナ船の多様な国際航路網の形成、港湾や背後輸送における位置・貨物情報の活用、自動化への取り組みなど、港湾物流を取り巻く環境が大きく変化しており、このような状況を見据えた将来の我が国の港湾物流、港湾のあり方についての研究が必要となっています。

また、企業の生産活動や国民生活を支えている国際ロジスティクスや国内海上輸送については、平時だけではなく地震・津波等の自然災害やテロ・事故などの発生時にも、社会活動への影響を最小限にとどめ、港湾・海運の物流機能の信頼性、安全・安定性を発揮し、災害時の緊急支援輸送などにおいても港湾・海運が

社会に大きく貢献できる取り組みを如何に進めるかが喫緊の課題となっています。

さらに、今後のグローバル化の進展や貿易の拡大などを見据えると、今後も大きな経済成長が見込まれ、大規模な港湾開発などが必要となる東南アジア諸国をはじめとする開発途上国においては、大規模な港湾開発や港湾を核とした地域開発への要請がまだまだ見込まれることから、当該国の社会経済の動静や港湾インフラへの要請などを十分に把握したうえで、開発途上国の国際物流を支える港湾インフラの計画・整備に、如何に我が国が関わり・貢献していくかについても、我が国の港湾物流や経済活動を考える上での大きな課題となっています。

本寄附講座では、このような状況を踏まえて、グローバルロジスティクスに対応した港湾の競争戦略に関する研究や港湾・海運のリスクマネジメントに関する研究を行っています。



パナマ運河を通航する大型の自動車専用船



東日本大震災直後に活用された港湾・海運の物流機能  
 (平成23年3月14日秋田港、写真提供 新日本海フェリー(株))